

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

小児腎臓病患者における入院中の運動療法が身体機能や尿蛋白、腎機能に及ぼす影響について

2. 研究責任者(当院)

所属：リハビリテーション室
氏名：田畑吾樹

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：なし
代表名：なし

3. 分担研究者

所属：腎臓内科
氏名：藤井隆之
所属：リハビリテーション室
氏名：白井智裕、三嶽侑哉、大野隼汰

4. 研究対象者

2021年04月01日～2026年06月30日の間に、聖隷佐倉市民病院にて入院した小児の腎疾患患者のうち、リハビリテーションのオーダーのあった方。

5. 研究の必要性

ネフローゼ症候群と糸球体腎炎などの腎疾患は小児期において発症率が高く、ステロイドや免疫抑制剤などの内服が必要となる。一方で、ステロイドの内服には様々な副作用が報告されており、特にステロイド筋症による身体機能の低下は、QOLや退院後の学校生活に影響を与えることが考えられる。よって、小児の腎疾患患者に対して、入院後再発予防を行いながら、運動療法を行い、身体機能の低下を予防することが重要である。しかしながら、小児腎疾患患者に対する入院中の運動療法が身体機能や尿蛋白、腎機能に及ぼす影響については明らかになっていない。小児腎疾患患者の入院中の運動療法の安全性や有効性が明らかになることで、小児腎疾患患者の身体機能やQOLの低下を予防するためのより効果的な介入方法や有効な評価方法の確立に繋がると考えられる。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

研究等によって生ずる個人の影響は、運動機能評価の実施により、身体的、精神的負担がかかる可能性があること、測定後に疲労感が残る可能性があることが考えられる。測定終了までに20分程度は時間を要しその時間は拘束されることが考えられる。対策として、研究途中であっても、対象者が心身のストレスを感じた場合、いつでも研究離脱が可能である事について研究依頼書に記載し、口頭でも十分説明する。また、測定中と実施前後には体調確認、バイタルサインを確認し、何らかの異常があれば実施を中止する。中止に伴い医療的処置が必要となった場合、研究者が責任をもって加入している理学療法士保険から支払いを行う。入院中に万が一、対象者の体調不良があれば主治医に報告し指示を仰ぐ。運動を行うことで血圧や心拍数などのバイタルサインや自覚症状の変化が起きる可能性が考えられるため、あらかじめリスクについて紙面と口頭にて十分に説明する。

本研究で予測される医学上の貢献の予測は、身体機能に対するリハビリテーションの介入が、小児腎疾患患者の身体機能の改善やQOL低下の予防、運動制限の緩和、理学療法分野における有効な評価指標や運動指導に確立に繋がることが考えられる。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151（代表）
担当者氏名：田畑吾樹
対応時間：8:30-17:00